

令和7年度事業報告書

公の施設名称	岡崎げんき館
施設の設置目的、役割	健康増進施設
施設の所在地	岡崎市若宮町2丁目1番地1
施設規模	敷地面積：13,263.56㎡ 建物面積：7,563.25㎡
指定管理者	名 称：岡崎げんき館マネジメント株式会社 所在地：岡崎市若宮町二丁目1番地1 代表者：鈴木 隆博
指定期間	平成20年3月1日～令和15年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

〈イベント〉

項目	実施日	人数(人)	内容
四季イベント 夏のげんきまつり	7/26	2,500	ふれあい夏まつり(盆踊り等)
小計		2,500	
四季イベント 秋のげんきまつり	10/12	142	プールイベント(ゴザ走り・水中撮影会)
		91	測定会イベント(シセイカルテ・ベジチェック)
		160	子どもサーキット
		130	ふわふわドーム
		360	その他ブースイベント
小計		883	
四季イベント 冬のげんきまつり	1/11	14	子どもわんぱく度測定
		12	シセイカルテ測定
	1/12	94	名古屋グランパス幼児サッカー体験(年少)
		71	名古屋グランパス幼児サッカー体験(年中)
小計		191	

四季イベント 春のげんきまつり	3/7 3/8	30	シセイカルテ AIで姿勢をチェック！
		25	わくわく切り紙うちわづくり
		6	ノルディックウォーキング体験
		13	すこやかキッズ体操 体験会
小計		74	
合計		3,648	

〈教室事業〉

項目	実施期間	申込人数	定員
第 1 期	4/1～6/30	2,678	3,053
第 2 期	7/1～9/27	2,628	3,047
第 3 期	9/28～12/21	2,713	3,060
第 4 期	1/4～3/29	2,562	3,075
合計		10,581	12,235

〈職業体験・社会見学〉

実施日	学校名	学年	人数
9/24～25	岡崎市矢作中学校	2 年生	3
10/8	岡崎市立根石小学校	2 年生	90
10/8～9	岡崎市立東海中学校	2 年生	3
合計			96

(2) 事業実施に対する自己評価

四季イベントについては概ね計画どおりに実施した

教室事業は提案教室受講料の値上げを実施したものの、定員に対する申込者数は 86.5%と高水準であり、昨年比－1.8%程度の微減であった。利用者にとって昨今の原価高騰による価格変動は一定程度受け入れられていると考えている。

職場体験や社会見学の申出には積極的に対応して受け入れた。しかしながら、職場体験においては学校から希望された日程が施設の繁忙時期と重なり、受け入れを断らざるを得ないケースが複数あったため、昨年度よりも実施件数が減少した。

2 施設の利用状況

(1) 利用状況

新規登録数	4,250 人
-------	---------

施設		人数（人）
健康づくり ゾーン	一般利用	150,895
	教室利用者（スタジオ・プール）	97,234
	見学者	295
	健康広場（フットサル）	2,925
	健康広場（テニス・サッカー）	11,804
	小計	263,153
子ども育成 ゾーン	プレイルーム	2,852
	子育て相談	140
	プレイホール	14,963
	利用者向け託児	1,776
	病後期一時託児	5
	小計	19,736
市民交流 ゾーン	和室	2,228
	市民活動室	6,564
	多目的室	7,203
	調理実習室	3,849
	市民ギャラリー	4,141
	講堂	12,015
	情報ライブラリー	33,864
	小計	69,864

保健衛生 ゾーン	総務係（窓口受付・取次件数）	223
	保健政策係（窓口受付・取次件数）	638
	医務指導係（窓口受付・取次件数）	1,388
	施設整備係（窓口受付・取次件数）	675
	環境衛生係（窓口受付・取次件数）	1,841
	食品衛生係（窓口受付・取次件数）	2,919
	感染症対策係（窓口受付・取次件数）	1,067
	予防接種係（窓口受付・取次件数）	3,140
	成人・難病支援係（窓口受付・取次件数）	2,412
	こども健診係（窓口受付・取次件数）	462
	歯科・栄養係（窓口受付・取次件数）	398
	こころの健康推進係（窓口受付・取次件数）	648
	市役所（窓口受付・取次件数）	234
	動物総合センター（窓口受付・取次件数）	466
	食品衛生協会（窓口受付・取次件数）	759
	その他（窓口受付・取次件数）	227
	小計	17,497
合計		370,250

（２）利用状況に対する自己評価

健康づくり支援事業では、今年度の一般利用者・教室利用者・フットサル利用者・テニス・サッカー利用者を含めた総利用者数が 263,153 人となり、昨年度（256,115 人）と比較して 7,038 人の増加であった。スタジオとプールを使用した提案教室では申込傾向やニーズの分析から適宜プログラムの組み換えを行った。

子ども育成支援事業は、全体の利用者数が昨年度より 1 割程度の減少であった。入園の低年齢化が進む中、子ども育成ゾーンの一般利用を示すプレイホールの利用者数は昨年度と比較して 1,452 名程度減少している。制作カリキュラムは終日実施して親子で楽しめるようにスタッフ一同で企画考案に努めた。

市民交流支援業務の内、総合受付で発行した新規の利用者カードは 4,250 枚（前年度 4,797 枚）となり、わずかに減少したものの依然として新規の来館者が多くみられる。

情報ライブラリーの利用者数は昨年度と比較して 98.5%とわずかに減少したものの依然として健康づくりゾーンの利用者による図書室のついで利用が多くみられた印象である。

保健衛生支援事業では、各種申請の受付業務、目的に対する案内・説明、電話対応・取次ぎ、健診の受付、予防接種の接種券受付、各種申請入力業務、発送業務、カルテ・受診票のチェック等の業務を行った。変更のあった業務についても積極的に受託して、指示書の内容を遵守して対応した。

3 収支状況

（１）収支状況

	項目	内 訳	決算額（円）
収 入	指定管理料収入		390,400,140
	利用料金収入	（市の歳入となる）	49,563,640
	事業収入	（独立採算事業のみ実施）	0
	その他収入	（独立採算事業のみ実施）	0
収入 計			439,963,780
支 出	直接管理運営費	直接人件費、光熱水費、消耗印刷費、修繕費、清掃等委託料、保険料等	331,336,978
	（うち修繕費）		13,588,357
	事業費	事業に係る経費	24,188,785
	その他	本部経費、租税公課、当期剰余金等	16,301,475
支出 計			371,827,238
差 引			68,136,542

（２）収支状況に対する自己評価

利用料金収入は昨年度（41,172,430 円）と比較して 120.4%であった。特に健康づくりゾーンにおける一般利用の増加による影響が大きいといえる。新規利用者に対する丁寧な案内を心がけた。健康相談の受付が高い水準で実施できており、施設の再利用にも貢献しているといえる。また、令和8年度からの利用料金値上げによる回数券と定期券の駆け込み需要に加え、必須提案教室の受講料値上げも影響して大幅な収入増となった。

4 利用者アンケート結果

(1) 実施概要

実施期間	回答者数	アンケート実施方法
2025 年 10 月 28 日～11 月 10 日	353 枚	各ゾーンにてアンケート用紙を配布。

(2) アンケート結果概要

市内利用者が 93.8%になる。交通手段 84.1%が自家用車であり、徒歩・自転車・バイクが 13.0%となる。公共交通機関を利用しての来館は 1.4%とごくわずかである。

スタッフの接客や対応については「非常によい」・「よい」との回答が 90.1%であった。施設の清潔さについて「非常によい」・「よい」という回答が 82.1%、施設の雰囲気について「非常によい」・「よい」という回答は 80.1%であった。

今後の利用について「また利用したい」が 88.9%を占めた。

自由記入欄には、利用料金の値上げに関する声が最も多かった。

四季イベントとして実施したげんきまつりについて喜ばれる声が聞かれた。また、子ども育成ゾーンにおけるスタッフ対応に関しての感謝やトレーニングジムでの指導等、人に対してのポジティブな意見があった。

一方で、ホームページの閲覧について指摘される声も聞かれ、設備の維持管理や更新に関する課題が見受けられる。

(3) アンケート結果に対する自己評価

アンケート結果は比較的良好といえる。「スタッフの接客や対応」「清潔さ」について8割以上が「非常によい・よい」であり、「また利用したい」と思われるサービスを提供できていると言える。さらに一層の高評価を得られるよう尽力したい。

設備や備品の更新及び修繕については優先順位を整理して対応していく。

5 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

利用者満足度向上委員会を設置して毎月開催している。投書及び受付窓口で把握したご意見等について SPC 構成企業各社で共有している。また意見のあった事例に対し施設内のセクションごとに置き換えて可能な限り迅速に対応した。

施設全体の利用者数も増加傾向にあり、十分なサービスが提供できているといえる。安全管理、コンプライアンスを大事として、接客接遇については一層の向上を目指したい。

（２）利用者のニーズ把握に対する自己評価

利用者アンケートと教室アンケートを行ってニーズの把握に努めている。利用者の目線であるからこそその指摘を大切にして、備品の追加や更新に役立てることができた。また、教室に関する要望については特に吟味して検討し、ニーズに応じたプログラム改定を行い、結果として教室受講者も増加している。

（３）苦情対応等に対する自己評価

意見箱、ホームページ、市からの連絡等でいただいたご意見に対して、それぞれ真摯に回答することを心がけた。

利用者目線でいただく運営のアイデアには貴重な内容が多くあり、すぐに対応できるものは即刻取り入れるなどして、市民と共により良い施設環境の構築を目指して取り組んだ。